

教育・学校心理学

《履修上の留意事項》出席は原則としてGoogle Formで取ります。出席の締め切りや学習成果の提出物の締め切りを守るようになることは自律性を養う上で重要です。また失格になる前の事前の警告はしませんので、自己管理能力を養うよう努めてください。

《担当者名》冨家 直明 (tomie@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

学齢期の子どもの発達と教育に関する基礎理論、子どもの心理的問題について理解することに加えて、必要となるアセスメントの方法と心理的支援法を修得することを目的として、将来の公認心理師に必要とされるリテラシーを涵養する。主体的で対話的な学び(アクティブラーニング)を取り入れた授業を行う。

【学修目標】

自律・発展的な学修態度を養う。
 教育の現状と教育に関する制度について理解する。
 教育現場において生じる問題及びその背景について理解する。
 教育現場における必要な支援について理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	教育学校心理学とは	教育学校心理学の学問的背景について理解する。	冨家 直明
2	学校の組織制度 学修目標	教育機関の法律、制度、倫理や、学校の組織と教育関連施設のあり方について理解する。	冨家 直明
3	学習・授業の課題と支援 学修目標	子どもの学力、学習方略、アクティブラーニング、学業不振、アセスメントの在り方、支援的授業、個別的な学習支援について理解する。	冨家 直明
4	学級経営の課題と支援 学修目標	学校におけるアセスメント、学校危機支援、学級集団、学校の教育問題と学級集団、学級集団に起因する問題に対する支援について理解する。	冨家 直明
5	生徒指導の課題と支援 学修目標	生徒指導、生徒指導に関する諸課題、スクールカウンセリング、スクールカウンセラーの役割について理解する。	冨家 直明
6	キャリア教育の課題と支援 学修目標	進路指導、キャリアガイダンス、キャリア教育、学校段階毎の課題と支援について理解する。	冨家 直明
7	メンタルヘルス教育の課題と実践 学修目標	メンタルヘルスの現状、メンタルヘルス教育と支援、不登校、いじめ、非行の問題について理解する。	冨家 直明
8	健康教育の課題と支援 学修目標	学校における健康教育の意義、子どもたちの健康課題とその対応、健康教育の展望について理解する。	冨家 直明
9	特別支援教育の課題と支援 学修目標	障害児・者に関わる法律、障害児・者の心理的特徴と支援、学校における特別支援教育について理解する。	冨家 直明
10	教育・学校をめぐる新たな課題と支援 学修目標	保護者対応、子どもの貧困、児童虐待について理解する。	冨家 直明
11	学校・教育システムの連携による支援 学修目標	学校文化、教師 - 生徒関係、家庭、学校、地域社会との連携、学生相談、教育評価について理解する。	冨家 直明
12	多様な職種によるチーム援助 学修目標	チーム学校における多職種連携、チーム援助の方法について理解する。教職員のメンタルヘルス、教育関係者へのコンサルテーション、コラボレーションについて知る。	冨家 直明
13	教育・学校心理学に基づく公認心理	教育学校心理学の実践モデル、教育分野における公認	冨家 直明

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	師に求められる実践と役割 学修目標	心理師に求められる行為、教育分野における公認心理師への期待と公認心理師活用の課題について理解する。	
14	教育分野に関する公認心理師国家試験を考える	教育分野に関する公認心理師国家試験の問題を概観する。	富家 直明
15	教育分野に関する公認心理師国家試験を考える	教育分野に関する公認心理師国家試験の問題の概観を通して、今後の学習計画を見直す。	富家 直明

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

出席フォームによる感想や質問の質・量の評価（10%）、レポートの評価(90%)

【教科書】

公認心理師スタンダードテキストシリーズ「教育・学校心理学」（ミネルヴァ書房）

【参考書】

誠信心理学辞典（誠信書房）

【備考】

講義内容は日本心理学会、公認心理師養成大学教員連絡協議会が策定した公認心理師大学カリキュラム標準シラバスに従う。

【学修の準備】

【学修の準備・事後学修】（合計240分） 本科目は2単位科目であり、1回につき4時間の授業時間外学習が必要です。生成AI（Gemini等）を「専属の家庭教師」として活用し、以下のサイクルを推奨します。

1. 予習（約90分）： テキストや参考資料を読む。生成AIを活用して講義テーマの「社会的背景」や「関連キーワード」を調査し、自分なりの「問い」を立てる。
 2. 事後学修（約150分）： テキストや参考資料を読むほか、図書館を活用して広く参考文献にあたる。講義内容をAIに要約させる。AIに「理解度確認クイズ」を作成させて回答し、間違えた箇所をさらにAIと議論して解消する。TA・教員への質問をしたり意見交換をすることも推奨します。
- なお、学修活動の証明として、AIとの対話ログ（履歴）や、AIの回答を元に作成した独自の学習ノートの提出を求めたり、感想を聞くことがあります。

【ディプロマポリシーとの関連】

- DP 3 . 心理学の基礎やそれらを応用発展させた心理科学と周辺諸科学に関する知識・技術を修得している。
DP 4 . 公認心理師の活動に関連する知識・技術を修得している。
DP 5 . 対人支援における多職種連携の重要性を認識している。
DP 9 . SDGs の視点を取り入れ、多様性や包摂性に関する理解を踏まえた社会的貢献をする力を有している。

上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

公認心理師・スクールカウンセラー

【実務経験を活かした教育内容】

公認心理師としてスクールカウンセラー等の実務経験を有しており、それらを反映させた授業を行う。